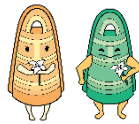


おおいし だより



大石まち協キャラクター
どうたくTWINZ
たつくん&ゆりちゃん

第66号

令和7年3月12日発行

発行 大石地区まちづくり協議会・大石コミュニティセンター

編集 総務・広報部会 広報紙編集委員会

坂井市春江町上小森 6-12 TEL/FAX(0776)72-0002

まち協ホームページ <http://www4.fctv.ne.jp/~ohishimk/>

大石コミュニティセンターアドレス ohishi-cc@city.fukui-sakai.lg.jp



まち協HPは
こちらから

大石地区の人口・世帯数		
(令和7年3月1日現在)		前号比
世帯数	1,414 戸	+4
人口	3,945 人	-16
男	1,955 人	-10
女	1,990 人	-6

◆越前白茎ごぼうの収穫体験と調理実習(教育・文化部会)



12月3日の火曜日、大石小学校の3年生が9月から育ててきた「越前白茎ごぼう」を収穫し、そのごぼうを使って調理実習を行いました。日赤奉仕団や市の農業振興課のみなさん、教育・福祉部会等がお手伝いし、ごぼうを収穫。その後、ごぼうを使ってペパロンチーノやポークチーズロールを作りました。またカナッパやベビーカステラも作り、みんなで豪華な美味しいランチをいただきました。子どもたちは慣れない包丁を使ったり、切り分けたごぼうをゆでたりして、どの子も一生懸命参加していました。

◆春江西部・大石「区長会・まちづくり協議会合同研修会」

2/8(土)

西部地区では、まちづくり協議会と区長会が、まちづくり研修会を合同で毎年開催しています。今回の研修会のテーマが「九頭竜川堤防反対運動～明治時代の春西・大石の人々の歴史～」であることから、大石地区の人も参加しませんかという話が持ち上がりました。大石地区の区長、まち協委員の方々に参加を呼びかけたところ区長3名、まち協委員13名が参加しました。

10:00より福井県立歴史博物館学芸員 伊藤大生氏の講演の後、11:30頃より昼食をとりながら懇談しました。



◆門松づくり(教育・文化部会)

12/22(日)



年末の恒例行事となっている門松づくりを25名が参加し、例年どおり大石コミセンで行いました。今年度も(株)花市場の方に講師をお願いしました。みなさん悪戦苦闘していましたが、最後には立派な門松を仕上げました。

◆年末の交通安全県民運動早朝街頭啓発活動(安全・安心部会)

12/11(水)

安心・安全部会が中心となって、まち協全体として交通安全協会などが行っている年末の交通安全県民運動早朝街頭啓発活動に参加しました。運動初日、あいにくの雨模様で寒い朝となりましたが、午前7時10分から芦原街道西長田信号交差点など区内主要交差点に、交通安全協会などと一緒にまち協委員も立ち、交通事故の抑止や飲酒運転の撲滅を呼びかけました。



◆大石地区幸福実感まち未来トーーーク（市民協働課主催）

12/14(土)



～主な意見～

- ① 若い30から50代の男女の活躍できる場所、機会などがあったら良い。
- ② 地域の若者がクラブ(スポーツや趣味)活動、指導できる仕組みづくり。
- ③ 自然豊かな田んぼ・畑などを利用しての子供からお年寄りの交流
- ④ 趣味、ペット、ママトモなど、ちょっと交わって話す緩やかな関係から始める。

”大石地区をどうすれば幸せが実感できる地域にできるか考えよう”
ということを8つのキーワードを元にワークショップで意見を出し合いました。

参加者は小学生から高齢者まで20名で6班に分かれて各キーワードについて意見を出し合い最後に結果を発表しました。

大石地区 各区のようす

◆ふるさとづくり大会で表彰される

1月31日古城ホールで行われた市ふるさとづくり大会で「春日野エイジレス倶楽部早朝ラジオ体操部会」が市民運動実践団体として表彰されました。おめでとうございます。

早朝ラジオ体操会を始めて11年目、生涯現役を掲げ、区全体で運動や交流の場を設け、元気づくりの活動を続けているそうです。



◆左義長の「どんど焼き」が行われる

1月12日(日)上小森神社前の空地で「どんど焼き」が行われました。

上小森区民や室町区の代表者が見守る中、9:00に持ち寄せられた正月飾りに点火されました。最初黒い煙がもうもうと立ち上りましたが、しだいに赤い炎に変わり、さらにやぐらの上まで炎に包まれました。パンパンという竹が激しくはぜる音が辺りに響きわたりました。

「どんど焼き」は、火の神を祀り幸福を祈願するとともに、災難除けを目的としたもので、この火で暖まると、その年は健康であると言われています。

大石地区では、5日又は12日に「どんど焼き」を実施した集落が多く、神事を行うところもあるなど、やり方は様々です。県内では2月末に勝山で行われる左義長が有名です。



九頭竜川と兵庫川にはさまれた旧木部村と旧大石村は、古くから水田が開かれた地域で、兵庫川（一部は磯部川）を用水とし、九頭竜川（一部は竹田川）に排水して水稻栽培を行ってきた。しかし用水と排水の高低差が少なく、降雨のたびに農地が冠水するため、堤防を築いて洪水に対処するとともに、排水路を掘削して排水を良くすることが、この地域の共通の課題であった。

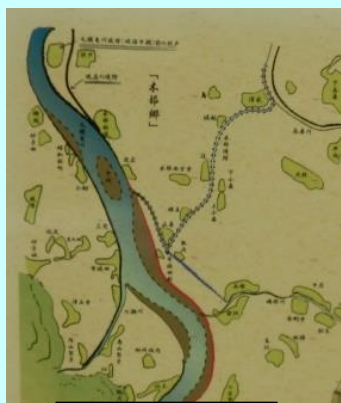
そこで正善区から清永区までの村境に堤防を造り、これを九頭竜川及び兵庫川の堤防とつなぐことで、上流から流れてきた洪水を防ぎ、集落を囲むような堤防が形成された。これが木部堤防であり、寛政8年(1796)に完成した(木部村史より)。

しかし、江戸期の古文書に寛弘3年(1006)に鬼辺郷 17ヶ村に堤が築かれたとあり、木部堤防がこの頃に出来ていたと考えられる(毛利権一著「堤防」より)。いくつかの説があるが、もともとこの堤防は集落間を結ぶ道であったが、洪水のたびに流れ込む水を防ぐために、長い年月をかけて盛土を繰り返して、それが堤防になったと言われる。この堤防によって上流の各村(大牧、井向、上小森、下小森、石塚、西長田等)では、水はけが悪くなり、幾たびか争いが起きた。

寛政12年(1800)には調停が行われ、堤防の高さを制限する31本の定杭が堤防沿いの田に打ち込まれた。

大牧の豪農であった坪田仁兵衛らの尽力によって、無堤地区であった高屋・定広間に春江堤防が彼の死後明治32年(1899)に築造された。この堤防が築かれたおかげで、国営の九頭竜川改修工事が着工され、明治44年(1911)3月、現在の堤防の原型が完成した。

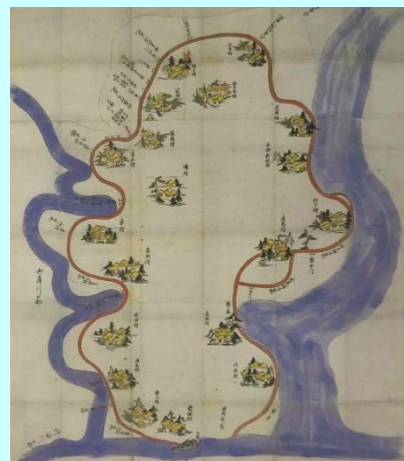
これにより木部堤防や定杭は役目を終えたが、その姿は竹や茅が生い茂りながら残っていた。しかし、県営の土地改良工事により昭和45年(1970)秋、木部堤防や定杭は取り払われ姿を消した。村落の存亡をかけ、流血事件にまで発展した木部堤防をめぐる攻防は、今では忘れ去られている。



木部堤防周辺



堀越から辻の日吉神社
方面撮影 定杭



鬼辺輪中絵図 井上邦子氏所蔵



お願い
します

学芸員の伊藤様より 大石地区の古い資料を探しています。心当たりのある方はぜひご連絡ください！(コミセンからお伝えします)



ありがとう
ございました

アトリエ工房で使う廃材(手芸用品)をいただきました。来年度の製作活動に使わせていただきます。ありがとうございました♪

コミセン・まち協のイベントはインスタにて投稿中！インスタのフォローお願いします☆